



茎数の増加は順調です！ 遅れずに中干しに入りましょう！

本年は、移植期以降、5月下旬から6月にかけて好天が続く、平年より高温多照で経過しました。梅雨に入りここ数日は気温が低い日が続いていますが、茎数の増加は順調です。

1. 生育調査結果（6月14日調査）

- ・草丈は平年に比べ平年並～やや短く、茎数多く、葉数は平年並、葉色は濃く推移しています。

表 作柄診断ほの生育調査結果

	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数 (枚)		葉色(SPAD)	
	上清水	押切新田	上清水	押切新田	上清水	押切新田	上清水	押切新田
本年	27.0	30.1	352	428	7.0	7.0	40.0	42.8
平年	32.8	30.1	284	374	7.0	7.3	37.5	38.1
平年比差	82	100	124	114	±0.0	-0.3	+2.5	+4.7
指標	30.2		334		7.3		36.6	

注) 鶴岡市上清水平年は過去5カ年平均、三川町押切新田（有機栽培）平年は過去4カ年平均

2. 茎数確保のための水管理

- ・分げつの発生を促すため、水深は2～3cmの浅水管理とし、日中止水・夜間灌漑とします。
- ・目標穂数（440本/m²）の8割である **350本/m²（70株植えて16.5本/株、60株植えて19本/株）が確保されたら、速やかに中干しを開始しましょう。** 下記の表を参考に、遅くとも6月25日には中干しを開始できるよう、茎数確保に努めましょう。

m²当たり茎数と今後の対応

m ² 当たり茎数	坪70株植えの場合	今後の対応
350本/m ² 以上	16.5本/株以上	すみやかに中干しを開始する。
300本/m ² 程度	14本/株程度	6月20日頃～中干しを開始する。
200～250本/m ² 程度	9.5～12本/株程度	6月25日頃までには中干しを開始する。

7月10日の生育診断では、茎数550本/m²、葉色38程度を目指しましょう。

3. アンモニア態窒素の発現状況

- ・6月11日現在の土壌中アンモニア態窒素発現量は十分あり、今後も分げつの発生は旺盛であると予想されます（鶴岡市上清水；7.6mg/100g、三川町押切新田；9.2mg/100g）。

※. 土壌中アンモニア態窒素発現量（mg/100g）と分げつの発生（木内ら、1961年）

2以下；分げつ発生停止、4以上；旺盛な分げつ

農作業安全に努めよう！